



出しろ1,500mmの軒先にはといが隠され、すっきりした表情をつくりだしている

丸良木材産業株式会社

MARUYOSHI CO.,LTD

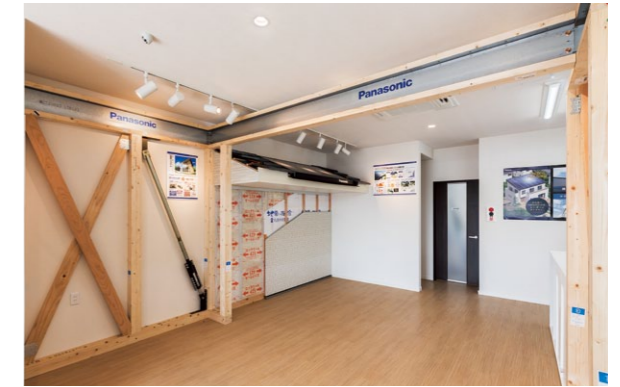
非住宅建設のノウハウを蓄積するためテクノストラクチャー工法で新社屋を建設。テクノストラクチャー工法による住宅実績が、テクノストラクチャー工法採用ビルダーで西日本(近畿以西)No.1を誇る丸良木材産業株式会社の本社社屋が完成した。社屋の前は和歌山市の東西の幹線道路となる県道143号が整備中で、道路完成後は地域のランドマークとなるような建築が求められた。計画にあたっては建築実績のあるテクノストラクチャー工法を用いてオフィスを建設することにより、今後拡大が予想される非住宅分野における設計・施工ノウハウを蓄積することが目的とされた。設計を担当した創

建設の宮本兼司氏は「建築意匠にこだわり、構造ではテクノストラクチャー工法の特長を最大限に生かすと同時に、断熱や防音などの性能を高めることを考えた」と語る。躯体は2寸勾配(11.3度)に傾斜した箱にもう一つの箱が挿入された形態。傾斜された屋根には太陽電池モジュールHIT240αを配置。木と鉄の複合梁<テクノビーム>によって深い軒の出や広い開口部スパンを実現している。1,500mmと深く出された軒は夏の日射を制御し、中央に設けられた縦格子ルーバと相まって高いパッシブ性能を確保。事務所では梁間隔を確保することにより、広い開口部と大空間を可能にしている。



丸良木材産業株式会社

所在地 和歌山県和歌山市栗栖
 主 主 丸良木材産業株式会社
 設計 創建設計
 施工 丸良木材産業株式会社
 竣工 2014年5月
 構造形式 木造(テクノストラクチャー工法)



打合せスペースとしても利用される構造展示コーナー



テクノビームにより、広い開口部が確保された大会議室

